

イカナゴ情報 No.2 (2019年6月)



道総研

令和元年 7月1日

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により 6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 6月は体長22~24cmが主体 小型個体も少数混ざる

6月の漁獲物標本を測定したところ、4~5歳とみられる体長22~24cmの個体が主体となっていました(図1)。2015年は漁期初めから体長15~20cmの1・2歳魚が主体であり、2016・2017・2018年はそれらの個体が成長したものがおもに漁獲されていました。2019年も2015年に漁獲されるようになったこれらの年級群が引き続き漁獲を支えていると考えられます。加えて1~2歳とみられる小型個体も漁獲されており、2018年同様、漁期後半にかけて漁獲の主体となることが期待されます。

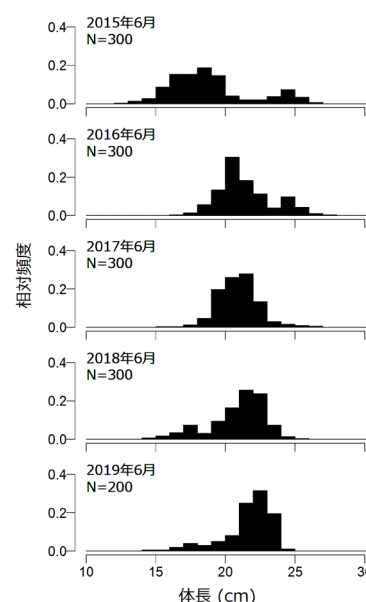


図1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の6月の体長組成.

海洋観測: オッター漁場の底層水温は昨年よりやや低め かけまわし漁場はやや高め

宗谷海峡東方海域において6月24~27日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました(図2)。

観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域は水温8℃以上の水温帯が占めていました。オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域の底層水温はおおむね3~5℃であり、2017・2018年同時期と比較すると2℃以上低い傾向がみられました。

ラインBでは、沿岸域は2018年同時期と比較すると2℃程度高いのに対して、沖合域は2017・2018年同時期より2℃程度低い傾向がみられました。かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は5~10℃と水温差が大きくなっていました。今後、宗谷暖流の勢力が増していくと、かけまわしの主漁場付近の水温は10℃以上の水温が占め、漁場が形成されにくくなる恐れがあります。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

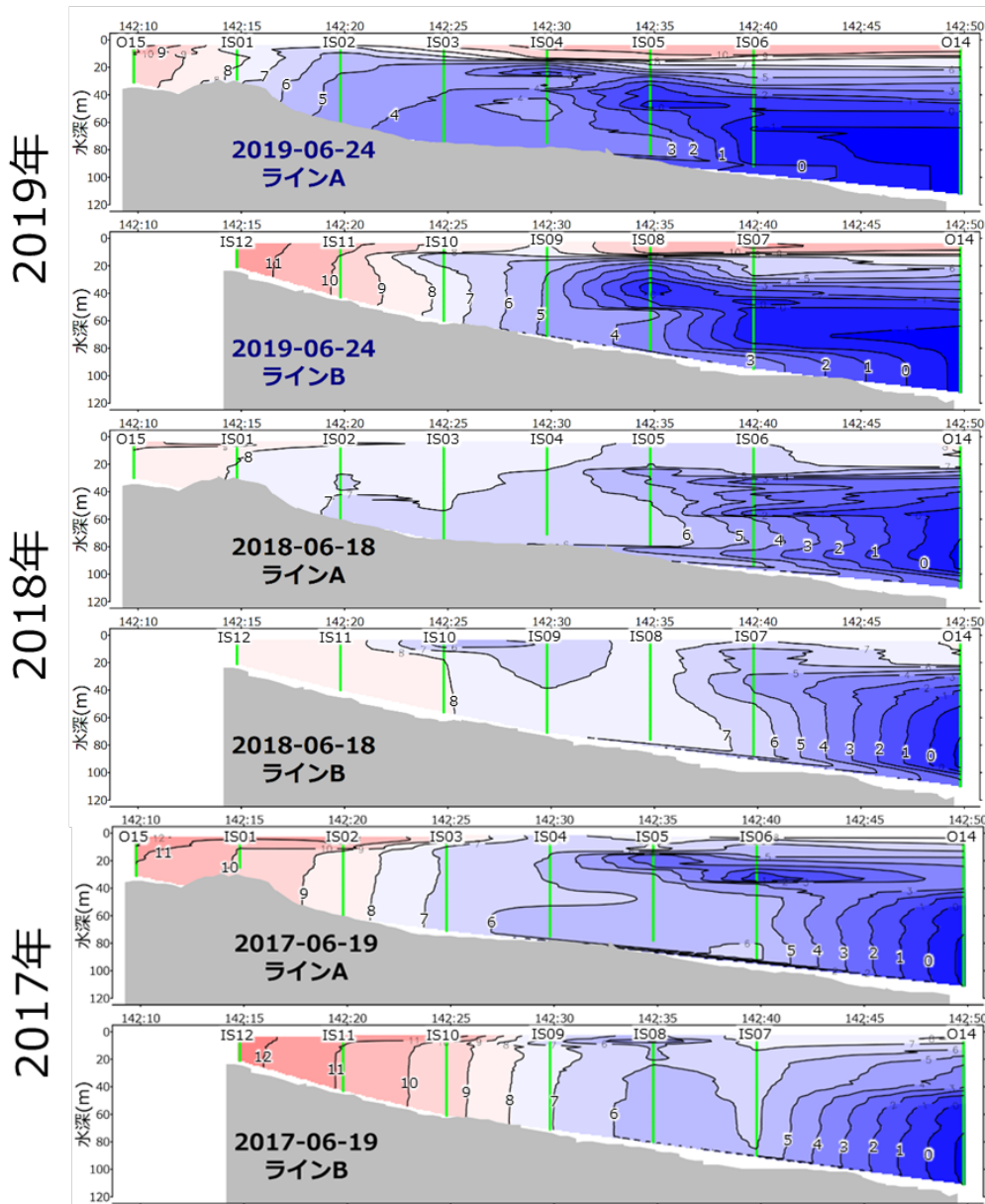
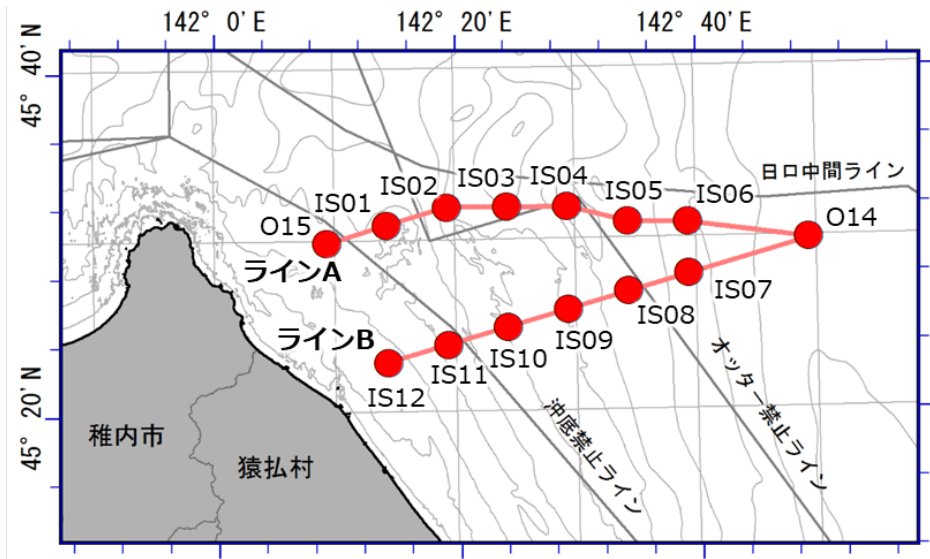


図2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

魚探観測：水深 40～60 m 付近に濃密な魚群反応を確認

海洋観測と同じラインで計量魚群探知機による魚群分布調査を実施しました(図 3)。

ライン A では水深 40～60 m 付近にイカナゴ類とみられる濃密な魚群反応が観測されました。ライン B では水深 40～50 m の海域の中層(20～40m)にイカナゴ類とみられる魚群反応が複数観測されました。

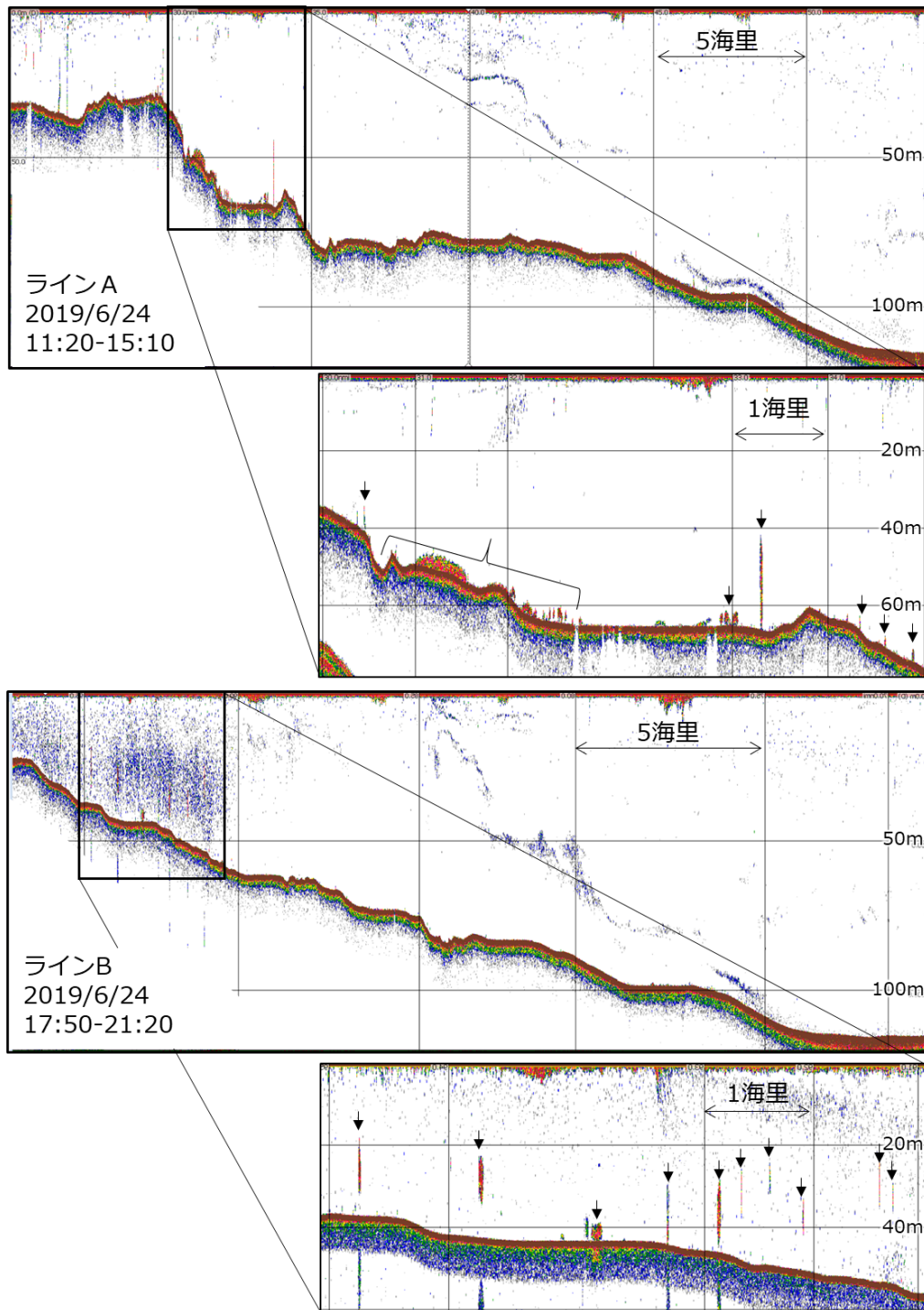


図 3. 各観測ラインにおける魚探反応図. 各ラインの右下図は黒枠内の拡大図. イカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印と括弧で示した.